

図説日本語

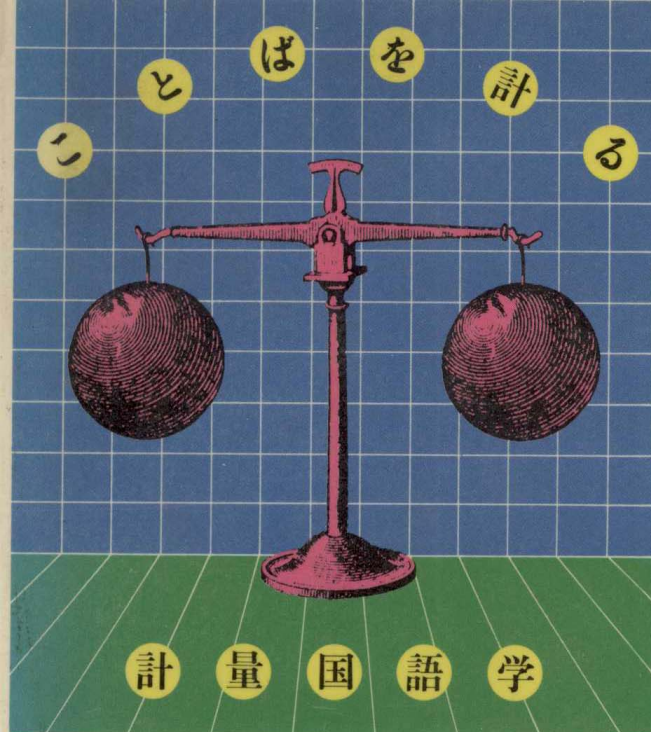
グラフで見る
ことばの姿

角川小辞典

9

林大 監修

宮島達夫・野村雅昭・江川清・中野洋・真田信治・佐竹秀雄 編



新聞と雑誌では、それぞれ三千数百字が出現しているが、共通して出現しているものが多いので、全体では、3,710種類が出現していることになる。

●新聞にのみ出現した使用度数10以上の漢字

諮・痔・迄・鵬・缶・彭・荏・肛・彪・麴・鄧・遼・
廖・榛・疫・𠂇・嗣・迭・綬・殉・譚・叢

●雑誌にのみ出現した使用度数

10以上の漢字・甘・紐・苾・

厭・耗・莖・匙・葱・撒・

丑・扮・焰・戟・劫・

茹・峯・尤・汰

雑誌にのみ
出現する漢字
497

新聞と雑誌の字種の比較

新聞と雑誌に共通して出現する漢字
2831

新聞にのみ
出現する漢字
382

日本語の特質や日本人の言語生活の実態などを、

その量的な側面から調査して分

析する方法がある。その計量的な研

究調査は戦後に著しく発展し、この30年

の間には有用なデータが数多く蓄積された。

本書では、それらの研究成果を約400項目にまと

めて、日本語の量的性質に関する特色が概観できるよ

うに編集した。付録には「ことばの統計学入門」のほ

か、各種の言語調査のデータと数種の索引を収めた。

角川書店



図説日本語

林 大 監修

宮島達夫・野村雅昭・江川 清・中野 洋・真田信治・佐竹秀雄 編



角川書店



図説日本語 グラフで見る
ことばの姿

監 修・林 大

編 者・宮島達夫 野村雅昭 江川 清
中野 洋 真田信治 佐竹秀雄

発行者・角川春樹

印刷者・横山 弘
東京都墨田区亀沢1-9-14

製本者・若林義一
東京都板橋区舟渡3-20-13

発行所・角川書店
東京都千代田区富士見2-13 〒102
振替口座 東京3 -1 9 5 2 0 8
電話 03-265-7111 (代表)

初 版・昭和57年2月10日発行

装 丁・代田 奨

写植組版・正和写真植字

製版印刷・横山印刷 製本・若林製本

落丁本・乱丁本はお取替えします

© Printed in Japan 1982

0581-060900-0946(0)

ま え が き

日本語及び日本人の言語生活の特色について、その量的な側面の記述が重要な役割をもつことは、今さら言うまでもない。その計量的な研究調査は、戦後特に著しく進められ、この三十年間に各方面にわたる有用なデータが数多く蓄積されている。

我々はここに、それらの研究者の個々の研究成果を一書のうちに紹介して、今日までに得られた、日本語の量的性質に関する知識をとりまとめるとともに、計量的研究の達成状況を概観することを企てた。これは、その趣旨において、国語学・言語学の研究者や教育関係者はもとより、広く日本語のあり方に関心をもつ方々に、座右常備の資料を提供しようとするものである。

本書に収めたのは、約400項目であって、項目ごとにグラフを掲げ、それぞれに簡略な解説を施し、出典と参考文献名を加えている。解説やグラフ化は、編集同人が個々に分担したが、内容の構成、原稿の検討等は、全体の討議によった。本書における項目の取り上げ方は、合議で決したとは言え、なお不備や偏りがあるかも知れない。それについては読者各位の御教示を得て、将来の増補修訂の期を待ちたいと思う。同時に本書の内容を水準として、計量的研究調査の新しい展開をはかりたいというのが我々の願いである。

論文報告等の掲載紹介については、原著作者と関係各位の好意ある許諾を得ている。ここに明らかにして深く感謝の意を表する。

私はかねてから、国語に関して、かの『国勢図会』や『理科年表』もしくは『読史備要』のような、データ集のあるべきことを考えていたのであるが、はからずもわが同僚諸君の間でこの計画が立てられ、自身もその仲間に加わることとなったので、今日の成刊を見るについては、ことにうれしく感じている。

なお、この出版にあたって、角川書店が、我々の余暇の仕事にこの実りをあらせるために、寛大な時日を託されたことを感謝したいと思う。

昭和56年12月20日

林 大

〈凡例にかえて〉

項目の選定にあたっては、日本語として重要な事項についての調査結果を優先的に取りあげたが、対象としての重みよりも計量言語学的方法の価値によって採用した場合も若干ある。

グラフは原論文の図をそのまま採録したもの、及び一部に手を加えたものと、そこに示された資料に基づいて編者が新たに作図したものとある。いずれにしても、原論文の主題に関する最重点部分を取ったとは限らない。

解説は簡潔をむねとしたので、さらに詳細な点については**出典**にあたっていただきたい。

参考文献にあげたのは、類似の研究のうち特に重要と思われるものである。

図説日本語 目次

〈世界の中の日本語〉

日本語と外国語

- 世界の言語人口……………15
- 語族の言語人口と言語数……………16
- おもな言語の話し手の増加……………17
- 言語と国家……………18
- 国内の言語数……………20
- 日本語の経済力……………22
- 世界の識字率……………23
- 現代世界の文字と識字人口……………24
- 翻訳書原語……………25
- 翻訳書出版点数と原語別比率……………26
- 科学雑誌の言語……………27
- 科学技術文献の言語……………28

- 外国語論文の増加……………29
- ハワイ日系人の言語習慣……………30
- 日本語とドイツ語の基本語彙……………31

日本語教育

- 海外の日本語学習者数……………32
- 海外の日本語教育機関数……………33
- 国内における
日本語学習者の推移……………34
- 国内における
日本語教育機関の推移……………35
- 出身地域別日本語学習者数……………36
- 外国人留学生数の推移……………37
- 在外子女の日本語能力……………38

〈語彙〉

語彙量

- 日本語と外国語の語彙量……………41
- 語彙量の分布—雑誌……………42
- 語彙量の分布—新聞……………43
- 新聞の記事別語彙量……………44
- 語彙量の分布—新聞と雑誌……………45
- 語彙量の分布—教科書……………46
- 短い作品の語彙構造……………48
- 文章における語彙の分布
——初出語の分布……………50
- 古典文学の語彙……………51
- 古典の語彙量——異なり語数……………52
- 古典の語彙量——延べ語数……………53
- 古典における語彙の類似度……………54
- 用語による梅・桜の歌の弁別……………56

- 語彙の一致度から見た
児童読物の位相……………58
- 児童読物の語彙……………59

語種

- 和語・漢語・外来語の比率……………60
- 意味分野と語種……………61
- 雑誌用語の語種別分布……………62
- 語構成要素となる語——語種……………64
- 話しことばの語種……………65
- 話しことばの中の漢語……………66
- 小説の漢語……………67
- 児童読物の語種構成……………68
- 文体と語種……………69
- スポーツ用語の語種……………70
- 外来語の原語——『言海』……………71
- 外来語の原語——現代雑誌……………72

品詞

辞典見出し語の品詞別統計	73
雑誌用語の品詞別分布	74
作品のジャンルと品詞の比率	76
話しことばの品詞	77
児童読物の品詞構成	78
形容詞と形容動詞の割合	79
各国語における品詞の割合	80

語構成

構成単位数による	
複次結合語の分類	81
語構成要素となる語——品詞別	82
使用度数から見た複合語を 形成する語の結合対象	83
使用度数から見た	
複合語の生産量	84
品詞別に見た単語の用法	86
語種別に見た名詞の用法	88
語構成単位数別に見た	
漢語の用法	90
和語名詞の結合対象	92
一字漢語の結合対象	94
二字漢語の結合対象	96
三字漢語の結合対象	98
四字漢語の結合対象	99
三字漢語の結合パターン	160
四字漢語の結合パターン	101
和語複合名詞の構造	102
三字漢語の構造	104
四字漢語の構造	106
一字漢語の造語力	108
否定の接辞	
〈無・不・未・非〉の違い	110
字音接辞の発達(1)	
——無・不・未・非	112
字音接辞の発達(2)	
——的・性・化	114

訳語の構成法の変遷

——英和辞書の場合	116
-----------	-----

専門語

専門文献の専門語	117
学術用語と基本語	
——英語との比較	118
学術用語と基本語	
——ヨーロッパ語との比較	120
職場の標準用語と慣用語	121
専門語と一般人の理解	122
料理用語の普及度	123
農業用語の理解度	124
農業用語	
言い替えに対する反応	126
専門語の変化	127

同音語・類義語

同音語の多い発音	128
同音語と文脈	130
同音類義語	131
同音語の数	
——日本語と中国語	132
同形語の数	
——日本語の中国語	133
電話番号の語呂合わせ	134
ことばの新旧(1)	135
ことばの新旧(2)	136

人名・地名

全国の地名	137
地名に使われたことば	138
地名の分布——河川名の 語尾「～沢」の場合	139
日本人の姓	140
姓の度数分布	142
名の度数分布	143
男の名前	144
女の名前	146
姓と名に使われる文字	148

同姓同名の発生割合……………149
姓の地域差(1)……………150
姓の地域差(2)……………151
人名と表記……………152
名まえのつけ方……………154
名付けの条件……………155
子どもの名前を付けた人……………156
名前とイメージ……………157
会社名の変化……………158

流行語・流行歌
流行語の盛衰……………159
新語・流行語
——高校生における知名度……………160
新語・流行語 理解の年齢差……………162
集団による流行語の差……………163
流行歌の語彙……………164
流行歌と外国語(1) 歌詞……………166
流行歌と外国語(2) 題名……………168

語彙の変化
語彙の変化……………169
語種の変化……………170
基本語の語種……………171
古典の語種……………172

英和辞書の訳語
——旧漢語と新漢語……………174
辞典の見出し語における
外来語……………175
新語辞典の語種構成比の推移……………176
形容動詞の語種の変遷
新聞広告……………177
枕詞の消長……………178

語彙の習得
幼児・児童の連想語……………179
幼児語の品詞……………180
反対語の習得……………181
語彙量の発達……………182
個人の所有語彙量の推移……………184

語形と意味
単語の語頭文字別分布……………186
語頭文字の分類……………188
単語の語形のゆれ……………189
分類語彙表の世界……………190
頻度をあらわす副詞の意味……………192
類義語の使い分け……………194
古典作品語彙の意味分類……………195
擬声語・擬態語のイメージ……………196
ことわざの語彙……………198

ひらがなとカタカナの使用率……………208
高校教科書における字種比率……………210
新聞の漢字含有率の変遷……………211
雑誌の層別漢字含有率……………212
週刊誌の分野別漢字含有率……………213
仮名文学の漢字含有率……………214

文字の数
日本語の文章と文字数……………201
世界の主な表音文字の
字母の数……………202
近世以前の平仮名字母数……………204
近世の平仮名字母数……………205

文字の使用量
新聞における文字の使用率……………206
ひらがなとカタカナの
累積使用率……………207

文字の形
漢字の部首別の字数……………215
六書による当用漢字の分類……………216
六書と漢字の学年配当……………217

〈文字と表記〉

形声文字の表音度……………218	同音字の分布……………254
漢字の図形的特徴(1)……………220	音訓の使用度数……………255
漢字の図形的特徴(2)……………221	漢字の機能
漢字の画数……………222	漢字の用法別の使用度数(1)……………256
漢字の簡略化……………223	漢字の用法別の使用度数(2)……………257
字形の複雑さと使用率(1)……………224	漢字の分類……………258
字形の複雑さと使用率(2)……………226	漢字の有意味度……………260
字形の複雑さと使用率(3)……………227	漢字の造語力……………262
漢字の具体・象形・熟知性……………228	文字の切れ続き
漢字の数	文字体系と文字列の長さ……………263
漢字字典の収録字数の変遷……………230	文節の文字構成……………264
『論語』『孟子』の漢字数……………231	文字連続のパターン……………266
古代文献の漢字数……………232	読点の打ち方……………267
国語施策による漢字表の字数……………233	広告文の句読点……………268
小学校の学習漢字数の変遷……………234	語表記
人名用漢字……………236	雑誌における和語のかな書き……………269
漢字の使用量	漢語のかながき……………270
新聞と雑誌の字種の比較……………237	雑誌のカタカナ語……………271
新聞と雑誌の使用度数の比較……………238	絵本の外来語表記……………272
雑誌の分野別の使用度数……………239	品詞による表記のゆれ……………273
新聞の記事別の使用度数……………240	送りがなのゆれ……………274
新聞の使用字数の変遷……………241	旧表記の原文と現代表記版……………275
漢字の制限範囲別の使用度数……………242	漢字表記語率の変遷……………276
新聞と雑誌の 使用度数分布の比較……………244	語種別の語表記率の変遷……………277
戦前と戦後の 大規模調査の比較……………246	その漢字が なくなった場合の影響力……………278
漢字はいつなくなるか……………247	読み書き能力
漢字の音訓	性・年齢による差……………280
漢字の音訓数	学歴による差……………281
——戦前の基本漢字……………248	職業による差(1)……………282
漢字の音訓数	職業による差(2)……………283
——常用漢字……………249	1948年と1955年の比較……………284
起源による漢字音の分類……………250	新聞を読む程度と 読み書き能力……………286
音訓数による漢字のパターン……………251	問題別正答率……………287
音形による漢字音の分類……………252	漢字の読みと書き取り……………288
訓の品詞性による分類……………253	かなの読みと書き取り……………289

ハワイ日系人と日本人	290
ハワイ日系人の 年代・世代による差	291
ハワイ日系人 ——日本語学習による差	292
ひらがなを覚える順序	293
中学生の漢字習得状況	294

文字生活

漢字とかなの 書き取りの速さ	295
漢字とかなの 読み取りの速さ(1)	296
漢字とかなの 読み取りの速さ(2)	297

〈音声とアクセント〉

音声・音韻

現代日本語(方言)の 母音の数	311
標準的な五母音における 唇の開き	312
五母音の フォルマント周波数の分布	313
名国語の母音の頻度	314
母音の出現率	315
日本語母音の「明暗」感	316
が行鼻濁音と濁音の感じ方	317
日本語の音節数	318
音節の相対頻度	319
個人音声の識別	320
声の発達	321

アクセント

アクセントの型の種類	322
東京語における 形容詞アクセントのゆれ	323
東京での「熊」の アクセントの推移	324

書体と読みやすさ	298
テレビ画面のテロップと 読みやすさ	299
たて書きとよこ書きの 読みやすさ	300
記憶した文字の再生	301
音訓表の受け入れられ方	302
新字体の受け入れられ方	303
新かなづかいの 受け入れられ方	304
同音の漢字の確認法	305
アルファベットの読み方	306

大阪での「窓」の アクセントの推移	325
八丈島方言のアクセント	326
文型とイントネーション	327
語尾を伸ばす口調に ついで感想	328

音韻アクセントによる語彙分類

拍数による語彙分類	329
アクセント型による 語彙分類	330
各モーラおよび 各アクセント型への所属語数	331

音韻・アクセントの変化

共通語化 20年間の変化	332
音声の共通語化の要因	334
アクセントの 共通語化の要因	335
クワ・グワ音の残存率	336
アクセントの共通語化	337
移住時の年齢とアクセント	338
ことばは移住によって どう変わるか	340

〈文法と文体〉

活用と活用形

動詞の活用ごとの語数……………343

大都市における
サ変動詞の推移……………344

中止形の用法……………345

活用形の使用度数……………346

類義表現

「水がのみたい」と
「水をのみたい」……………348

「英語が話せる」と
「英語を話せる」……………349

「～へ」と「～に」の地域差……………350

「大きい」と「大きな」……………351

「特別な」と「特別の」……………352

現代語の当為表現……………354

当為表現の変遷……………356

可能表現の変遷……………357

「れる」・「られる」の意味……………358

「見られる」と「見れる」
——年齢別の結果……………359

「見られる」と「見れる」
——出身地別の結果……………360

「見れる」と「来れる」……………362

「てある」と
「(ら)れている」……………363

文の構造

話しことばの文の構造……………364

語順……………365

語順——主語の「～が」と
その他の成分……………366

語順——対象の「～を」と
その他の成分……………367

〈かかり〉の集中度……………368

文章の種類と

「～は」「～が」……………370

文の構造と分かりやすさ……………371

文の長さ

話しことばの文の長さ……………372

作家と文の長さ……………373

文章の種類と文の長さ……………374

教科書の文の長さ……………375

新聞の文の長さ……………376

常体と敬体

常体と敬体

——国語教科書の場合……………377

常体と敬体

——児童作文の場合……………378

「だ」調・「である」調・

「です」調……………379

「だ」と「である」

——新聞の場合……………380

文中の「です・ます」体……………381

文法能力の発達

助詞の習得……………382

文法能力の発達……………384

受動文の理解の発達……………385

構文変換能力の発達……………386

大学生は文法ざらいか……………387

文章・文体

文学作品の長さ……………388

作文の長さ……………389

男の文章と女の文章……………390

文章の種類と品詞の比率……………392

文章の凝縮度と名詞の比率……………393

情報の要約と検索……………394

自動抄録におけるキーワードの
センテンス抽出能力……………395

口語文の普及……………	396
教科書の文体の変遷……………	397

〈敬 語〉

人の呼び方

人称代名詞……………	403
夫の呼び方	
——夫を話題にするとき……………	404
夫の呼び方	
——夫に呼びかけるとき……………	405
妻の呼び方……………	406
「～クン」で呼ぶ相手……………	407
幼児への呼びかけ……………	408
人称による上下関係……………	409
「母」というようになる時期……………	410

敬語使用

使い分けの男女差……………	411
職階と敬語……………	412
依頼表現……………	414

〈方 言〉

方言の実態

方言量の多い対象……………	429
漁村と山村の「波」の語彙……………	430
北国と南国の「雪」の語彙……………	431
諸方言の古さ……………	432
東京在住者の	
「標準語」使用の程度……………	434
現代日本標準語の	
分布率順位……………	435
標準語形分布率の全国順位……………	436

方言の分布・区画

語法から見た	
東西方言境界線……………	438
音声特徴の地域相関……………	439

短歌の格調……………	398
------------	-----

「する」の謙讓表現形式……………	415
東京と大阪の	
身内敬語の実態……………	416
「お」を使う人……………	417
「お」の付く語・	
付かない語……………	418
「お」の付くことば	
——幼稚園の場合……………	420

敬語意識

敬語意識の変化……………	421
敬語についての意識……………	422
敬語がうまく使えるか……………	424
家の中でも	
敬語を使うべきか……………	425
敬語習得の機会……………	426

音声の分布・区分……………	440
九州方言間の共通度……………	442
沖縄方言の内部差……………	444
相関係数を用いた	
方言の使用状態の分析……………	445
語の漸移状分布……………	446
アクセントの事例……………	447
共通語(東京語)化の点数……………	448
言語地図における孤例……………	449

方言の変化・共通語化

方言(俚言)の退化現象……………	450
方言(俚言)の消失……………	451
事物の廃亡と名称の使用度……………	452
移住に伴う方言の変化……………	453

方言での敬語使用と その推移……………	454
「胃」の発音の推移……………	455
「あざ」の表現形式の推移……………	456
「私」を表す語の 男女差・年層差・場面差……………	457
場面による表現差の実態……………	458
場面差と共通語化……………	460
場面による共通語化の程度……………	461
地域社会の共通語化……………	462
語の地理的伝播速度……………	463
沖縄方言の分裂時期……………	464

〈言語生活〉

言語行動

買い物行動における発話回数……………	477
性×年齢による 言語行動の差異……………	478
時間帯による 言語行動の差……………	480
相手の人数……………	481
窓口での応対——言語的態度……………	482
窓口での応対——非言語的態度……………	484
読書の動機……………	486
国語辞典の使用状況……………	488
辞典の用途……………	489
マスコミ接触時間の 国際比較……………	490
一日の消費時間……………	492

あいさつ

朝のあいさつ……………	493
日本人とドイツ人との比較……………	494
あいさつのことば……………	496
未知の人とのあいさつ……………	498
「ありがとう」と 「すみません」……………	499

方言意識

土地のことばは好きか(1) ——性・年齢別……………	465
土地のことばは好きか(2) ——都道府県別……………	466
東北弁・関西弁・九州弁の イメージ……………	468
東京弁・関西弁のイメージ……………	470
方言のイメージ……………	471
方言の知名度・使用度……………	472
方言研究の歴史 方言研究の盛衰……………	473

言語意識

近ごろのことばづかいと 放送の影響……………	500
外来語の使用は好ましいか……………	501
ことわざ・成句の解釈……………	502
好きなことば……………	504
好きな漢字……………	505
口数の多少と好み……………	506
語感を通して見た 東西の金銭観……………	507

ことばの男女差

用語の男女差……………	508
性についての形容詞の男女差……………	509
男女のことばの差……………	510
男性語化した女性の ことばに対する印象……………	512

マス・メディア

読書率・ マスコミ接触率の推移……………	513
日刊一般紙の 発行部数の推移……………	514

日刊一般紙の 発行部数の国際比較……………515	映画館数と年間観客数……………521
新聞における 広告面比率の推移……………516	電話・手紙
単行本発行点数の国際比較……………517	電話加入数の推移……………522
テレビ・ラジオの 受信契約率の推移……………518	電話の使用台数の国際比較……………523
テレビ受像機数の国際比較……………519	郵便の年間利用通数の推移……………524
ラジオ受信機数の国際比較……………520	手紙の前文の型……………525
	ハガキ文の書き出し……………526
	自殺の原因と遺書……………527
	筆不精になる心理的要因……………528

〈付録〉

概 論

ことばの統計学入門……………532

資 料

日本語の語彙調査……………565
外国のおもな用語調査……………565
国立国語研究所の用語用字調査……………566
辞書の見出し語の総数……………567
話しことばの語彙調査……………568
書きことばの語彙調査……………569
主要漢字調査……………570
おもな漢字調査における 漢字の度数・使用率の比較……………571
主要漢字調査順位表……………574
国立国語研究所言語生活調査……………576
国立国語研究所語彙調査の単位……………582

索 引

事項索引……………584
作家・作品名索引……………591
出典・原著者索引……………593
資料別 内容索引(1)……………596
観点別 内容索引(2)……………597

まえがき……………I
凡例……………2
著者紹介……………598
奥付……………599

世界の中の日本語

